

開講日	2025年秋期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部研究棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 教授 齋藤 伸治		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】小児医療とは子どもの症状・病気にに対して適切な処置を行いつつ心身の健康をサポートするものです。多岐にわたる幅広い知識と対応する能力が望まれます。日本の出生数は減少する一方、医療が大きく進歩したこともあり、新生児から思春期まで様々な病気や問題を抱える子どもの数は多くなりました。その中には感染症やアレルギーだけでなく、心身症や発達障がい、児童虐待といった発達・心理的支援が必要なものまで広く含まれます。小児医療に対する社会的需要は非常に高く、多くの人が現場チームへ参加することが望まれています。本講座では、小児医療の各分野で現在活躍されている方々を講師に迎え、最新の知見を含めた小児医療の実際を学んでいただきたいと思います。</p> <p>小児医療の学習範囲は幅広く細分化されますが、本コースを受講することで現在小児医療の現場で実際になされている事項を広く効率的に学ぶことができます。身近でよく見られる症状から、稀にしか遭遇しないが知っておくべき疾患までカバーされています。さらに、発達障害や心身症など、これから知っておきたい分野まで見識を深められます。学習を通じて、小児医療に関心を持つ好機になるだけでなく、実際の小児医療の現場へスムーズに参加して活躍する手助けとなると確信しています。</p>
目標とする 資格	小児領域の資格看護師(小児看護専門看護師、小児プライマリケア認定看護師、新生児集中ケア認定看護師)を目指す方や、NCPR(日本周産期・新生児学会新生児蘇生法インストラクター)修了認定を目標にされる方。もちろん、子どもたちの医療現場に興味を持たれている方であれば、現在の小児医療の実際を知る・振り返るために役立つ内容が網羅されています。

サブカテゴリ	No	タイトル(仮)	講義概要	開催日	講師(所属)
アドボカシー	1	小児医療におけるアドボカシー	近年は子どもが意見や考えを表明できるようにサポートする「アドボカシー」が現場で重要視されています。小児医療におけるアドボカシーを中心に、COVID-19やその他の種々の小児に関する問題についてもお話しいたします。	9月3日	伊藤健太 あいち小児保健医療総合センター 医長
内分泌	2	身近な小児内分泌疾患	我が国で出生したすべての赤ちゃんに検査される新生児マススクリーニングから低身長、そして糖尿病や甲状腺疾患など、身近に関わる小児内分泌疾患は意外と多いものです。この講義では、小児内分泌疾患の概要と管理方法について学びます。	9月10日	青山幸平 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 講師
血液	3	小児の血液・腫瘍	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、腫瘍など見過してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	9月17日	亀井美智 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
循環器	4	目からうろこの先天性心疾患	小児の心臓病と聞くと、それだけで難しいイメージが湧いてしまいますよね。でも、もう安心して下さい。この講義が目玉で、参加して、一緒に考えれば、「そうだったのか！」と目からうろこの先天性心疾患のお話をします。「なんて人の心臓はうまくできているのだ」と感動し、興味を刺激され、医学の魅力に取りつかれてもらいます。	9月24日	篠原務 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
アレルギー	5	医療スタッフが活躍する小児アレルギー診療最前線	小児アレルギー分野の3大疾患である「食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息」の最新管理法を一気に学びます。また「看護師・薬剤師・栄養士」との協働が欠かせない分野ですので、アレルギー指導の専門資格である小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導士を有する専門看護師による実際の患者支援法も学びます。「素敵な学びなおし」の機会になりましたら幸いです。	10月1日	①谷田寿志 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、助教 ②柏原一水 聖霊病院 看護師
救急	6	小児ER初期対応	救急外来(ER)に来院する小児は非常に多いです。その中には小児特有のケースも多岐にわたって遭遇します(例:重症感染症から事故、異物誤飲、外傷、急変など)。本講義ではそれらの概要と初期対応について、そして小児における心肺蘇生法(CPR)も含めてわかりやすく解説します。	10月8日	今井一徳 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 講師
虐待	7	虐待から小児を救うために	小児の虐待は年々増えており深刻な社会問題となっています。困難な環境から子どもを救い、虐待を無くしていくには多種多岐にわたる広い支援が必要です。本講義では児童相談所で子どもたちを守るために活躍されている先生から、虐待が疑われる児の特徴、対応法、その後の長期的ケアなど、実際の現場を中心に解説していただきます。	10月15日	丸山洋子 名古屋市中央児童相談所 課長補佐(医学的指導)
神経	8	小児のけいれん性疾患 ~ 熱性けいれんからてんかんまで~	熱性けいれんなど小児のけいれん・意識障害は身近でよく遭遇します。時にけいれんが重積したり、脳症であったりに対応に難渋することもあります。本講義では熱性けいれんからてんかん・脳症まで、初期対応から管理法を中心に最新の知見を交えて学びます。	10月22日	根岸豊 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
先天異常	9	現場でよく診る先天異常・染色体異常	小児医療に携わる中で先天異常、染色体異常に遭遇することは比較的多く、その特性を理解することは大切です。出生時からみることの多い染色体異常、先天異常・症候群の概要について、特徴や長期的な管理方法について学びます。また、近年注目されているNIPTなどの出生前検査についても紹介します。	10月29日	横井暁子 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 講師
腎泌尿器	10	小児検尿検診 ~ 乳児検尿から学校検尿まで~	我が国は検尿検診が3歳児から幼稚園、学校まで一貫して行われており、その中で学校検尿は50年の歴史があります。確実に成果が上がっているのですが、世界では珍しいシステムです。なぜ海外では行われていないのか、実際の成果はどのようなものなのか、現状の検尿システムの問題点、そして、改善への試みなどについてお話しいたします。	11月5日	後藤芳充 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 部長
心身症	11	小児心身症のケア	近年は様々な理由で不登校となる児童が増加しています。起立性調節障害、頭痛症、過敏性腸症候群、摂食障害をはじめとした心身症に苦しむ児は多く、これらの疾患概念や児の困難を理解することが重要です。本講義では治療や支援方法を含めた小児心身症の対応法を学びます。	11月12日	井口敏之 星ヶ丘マタニティ病院 副院長
新生児①	12	新生児蘇生法最新バージョン	出生・出生は人生で最大のイベントであり、同時に最も危険な瞬間です。全ての新生児が生後元気に過ごすことができるように、出生直後の新生児の対応は国際的に標準化されてきました。ここでは、我が国における標準的の新生児蘇生法であるNCPRの最新版を習得します。	11月19日	加藤文典 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 准教授
新生児②	13	新生児集中治療室の実際	新生児集中治療室(NICU)には様々な赤ちゃんたちが入院します。今回どのような疾患の赤ちゃん達が入院し、そのご家族とどのように過ごしているかを実際の様子を紹介しながら新生児治療を学びます。	11月26日	杉浦崇浩 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 助教
発達障害	14	発達障害児との関わり方	近年の小児医療は予防接種などの普及により感染症は減少し、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、眼局性学習症(SLD)をはじめとした発達障害の管理・サポートが求められています。これら発達障害の特徴を理解し、育児のポイント、支援の内容、就学時の問題や教育現場での対応など療育について総合的に学びます。	12月3日	大橋圭 名古屋市立大学大学院医学研究科 ころの発達医学寄附講座 講師
重症心身障が	15	医療的ケア児の医療と生活を支援する~実技研修を含めて~	小児医療に携わる上で医療的ケア児・重症心身障がい児との関わりは必須であり、その特徴を理解することはとても大切です。本講義ではそれらの児の身体的特徴を知り、人工呼吸器や経管栄養をはじめとした医療的ケアや治療管理を総合的に学びます。	12月10日	水野美穂子 重症心身障害児者施設「にじいろのいえ」理事長